

令和元年度（2019年度）第2回吹田市立男女共同参画センター運営審議会議事録

1 日時 令和2年2月10日（月） 午後3時00分～午後5時00分

2 場所 吹田市立男女共同参画センター 2階 第一会議室

3 出席者 <審議会委員>

（出席者10名）

大下委員、金子委員、木下委員、白江委員、田中委員、藤内委員、富永委員、

溝上委員、矢野委員、藪谷委員 （五十音順）

<事務局職員>

大矢根正明（人権政策担当理事）、杉公子（市民部男女共同参画室室長）、畑澤由佳（男女共同参画センター所長）、柴野勝俊（男女共同参画室参事）、檀野良美（男女共同参画センター所長代理）、河野充秀（男女共同参画センター主幹）、和田亜由美（男女共同参画センター主査）、大久保千恵（男女共同参画センター係員）

4 傍聴者 0名

5 議題 （1）男女共同参画センターの運営状況について

（2）その他

【議事内容】

（理事あいさつ）

（会の成立要件について報告）

（欠席の連絡）

（傍聴の有無）

（資料の説明）

会 長：それでは次第のとおり進めさせていただきます。まず、案件（１）の平成３０年度男女共同参画センターの運営状況について。及び案件（２）の令和元年度予算及び事業計画について。一括して事務局から説明を受けます。

事務局：（資料に基づき説明）

会 長：ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、御質問等がございましたらお受けしたいと思います。

委 員：資料についてではないですが、この会は男女共同参画センターの運営について皆さんで議論する場で、たくさんの資料を拝見するなかで利用者数であるとか、素晴らしいバリエーションのある講座を開催されているのはすごく理解できます。そのうえで、この場で議論する材料の一つとして、センターとして、例えば、今はこういうことに力を入れているとか、今後こういうことに力を入れたいとか、そういうものがあればぜひ伺って、その目標と現状を照らし合わせることを含めて議論できると良いのではないかと思います。

会 長：もう少し大きな枠でということですね。個別の資料で出てきたデータを議論するのではなく男女共同参画センターのあるべき姿であるとか。

委 員：そうですね、資料を拝見するとWリボンのこととか暴力防止に力を入れておられるのは何となく感じます。プランに沿っての事業はもちろんそうですが、事業を通して市民の方々の声とかも聞いておられると思いますが、現状と力を入れていきたいポイントがあれば伺いたい、曖昧な質問ですが申し訳ありません。

会 長：はい、ありがとうございます。それについて説明して頂きたいと思います。こういう現状からこのように運営していきたいというセンター自身の事務局としての提案や感想ですね。

事務局：説明しましたWリボンもそうですが、これまで啓発に力を入れていたのですが、来年度からは、直接的な支援に更に力を入れていきたいと思っております。相談事業や対等な人間関係を築いて頂きたいということで、若年層への暴力の予防啓発に力を入れていきたいとセンターでは考えております。

会 長：いかがでしょうか、今のお話で。思うところがございましたら。

委員：そう意味では若年層ということでDV防止の大学の講座、各学校とかでされているようなことを今後も増やしていきたいと思っておられるということですね。

事務局：はい。

委員：ありがとうございます。

会長：今のお話で、主催講座一覧の資料4について。大学生16名のユースリーダーが実際に各中学校に行きまして出前講座をしていることを伺ったんですけど、これは本当に今おっしゃったように直接的に何か訴えるというか、若年層に訴えるようなやり方をとられているので凄いなとは思ったんですが。これに関してちょっと何かもしございましたら。16名の大学生を集めるというのが、今の大学生結構、自分のことで精一杯で世の中のことを考える人は本当に一握りというか、こういうことをやってやろうという大学生が増えているのは凄いと思います。

事務局：登録は16名となっておりますが、実際の活動としましては、だいたい7～8名、都合が合えば来てくれるという感じでやっております。授業時間は、各中学校に2時限お願いしております、講師の方と共に出前授業を行っております。講師の方の説明とロールプレイ、アイスブレイクを大学生にやってもらっております。

会長：ワークショップという形でやって、そのなかに大学生が入っていくということですか。

事務局：講義とロールプレイです。どういったことがDVなのかということを中学生に分かりやすくロールプレイを通じて伝えていきます。

会長：中学生という年頃からすると出来るだけ近い年の人たちと話が出来たり、或いは疑問点を気軽に話せたり、私みたいな年齢の先生から言われるよりは、むしろ身近な存在として何か感じられるのではないかと。すごい試みだと思います。

委員：中学生の受講生の感想アンケートは取っていますか。反応とかが知りたいです。

事務局：一般的にはDVは暴力のイメージが強いと思うのですが、経済的なDVであるとか精神的なDVであるとか、社会的暴力、今はスマホですね。女子であれば他の男の子とやり取りをしている内容を消すということもDVになるよと説明することで、中学生たちが、こう

いうこともDVになるんだという気付きが感想にあったり、先程おっしゃったように大学生のユースリーダーが最後に自分自身の体験の話をする事で、より身近な問題として捉えてもらえている、そのような内容の感想もたくさんもらっています。

委員：Wリボンが始まった時に、私も凄く興味を持ちました。最近ちょっと中だるみだったんですよ。この前、国が取り上げてくれたことで、ちょっとまた盛り上がってきたかなと思うんですけど、やっぱりこれは続けて発信していかないといけない大事な事だと思うんですね。特に、Wリボンにどうしてしたのか、吹田が作成したということの意義を繋いでいかないと中だるみになるので、何か新しい事が毎年あれば良いかな、続けていくことと新しい事と両方あれば、より皆さんに伝わっていくのかなと思うんです。私、民生委員をやっているんですけど、民生委員の方にWリボンバッジを買って下さいっていうのがあって、私ここに買いにきたことがあるんですけども、やはり市の職員や民生委員は全員付けるべきだと思うんです。後藤市長も国で取り上げてくれてから、ちょっと意識して最近付けてくれている感じで、もうちょっと盛り上げていきたい感じですよ。11月にWリボンの講座がありますよね。11月だけではなく、やって頂けたら良いかなと思うんです。

会長：貴重なご意見だと思います。

委員：私は大阪府の虐待防止アドバイザーというのを20年位前に養成したんですが、それが何も役に立たず、今は子育て支援をやっていますが、大阪府も本気で取り組むことがなく、吹田市もそれには手を付けず、立派なメンバーが集まっていたんですが、結局、その時は子供の虐待防止だけだったが、その裏には、母親の子育て、母親の気持ち、夫婦のことなど隠れていることまで自主勉強会をずっとここを借りてやっていましたが、結局形になりませんでした。これが立ち上がって良かったです。

会長：ありがとうございます。たくさんの講義、講座があるんですけども、継続して長く開催していく講座と集中的に力を入れてやる講座と両方とも大事だということで、その視点で考えていったらどうかということですね。

委員：毎年割とこの時期これだと、私はいつもデュオのチラシを見せて頂いていますので、何となくちょっとマンネリ化しているかなあと感じます。シニアリーダーとかユースリーダーの方が、外に出て行ってというのが一番新しいぐらいかなあと感じがします。だから今回の講座「避難所生活～」はとても良いですね。私も地域で防災をしているので、これはとても良い講座をやって下さるなあとなかなか私の気持ちにヒットするものが最近ないです。

会 長：ありがとうございます。ルーティンでやっていくものとその都度、例えば、一昨年の北部地震の話を受けて講座を開催するとかということですね。その時々でタイムリーな事を入れてということですね。今までもそのように対応はして頂いているとは思いますが、更に強弱をつけながらやっていくことをお願いされているのかなあということですね。他に何かありますか。

委 員：主催講座一覧のなかでの感想と質問ですが。僕は個人的にファザーリングジャパンというところで、料理講座などを各センターなどでやっています、85講座というのは本当に圧巻の数字ですね。自分の住んでいる地元の町がこれだけの講座を開いているというのはすごく自慢になっております。目についたのが倍率のところではトップ3が、男性がテーマとなった講座です。3.25倍、2.71倍、両方とも男性を対象にした講座で、これは凄いことですね。第3位の「会議や発表に強くなれる発声法～ボイストレーニングで引き出すワタシのカ～」これは改めて男性とくくってなくてカタカナでワタシと書かれてということは男性女性関わりなくというふうに汲んでいるのですが、男女比が分かれば、伺いたい。あとはDV防止対策講座の各学校のアンケートの満足度が子供らしくてすごく正直な数字、50%台というのがいくつか見えていて、これの裏にあるものが凄く興味があります。これは満足度をチェックするだけなのか。コメント的に文字で集められているものあれば印象的な当事者のコメントがあれば、運営審議会で共有できればありがたいなと思いました。

会 長：ありがとうございます。質問が二点、一点目はトップ3の講座のなかで男女比ですね。

委 員：そうですね、第3位の「会議や発表に強くなれる発声法～ボイストレーニングで引き出すワタシのカ～」が男女共の講座のなかで、一般的にはこの文面だとまだまだ男の人対象という捉え方になろうかと思うのですが、現状こちらの思い、男女どちらにも女の人にも参加して欲しいという思いが込められていると思うんですが、現実どうなのか。

事務局：男女比については、確認して後ほど。本来は女性限定でやりたかったのですが、初めての試みということもあり、女性限定にはしていませんが、もちろん女性の方が多かったと思います。あとは中学生講座の分ですね。

委 員：そうですね、アンケートの満足度。他の講座は圧倒的に大人の方対象ということで、僕らでもそうなんですけど、やはり空気を読むんですね。

事務局：中学生は、だいたい普通の欄に丸をすることが多いです。ただ普通に丸をしたり、満足、不満と書いている子でもコメント自体は先程説明がありましたように、殴ったり蹴ったりの身体的暴力だけではなく、人のスマホを見たり、お金を貸してと行って返さなかったりという経済的な暴力、精神的な暴力もDVになるのだということがわかったという意見が圧倒的に多いです。本当は友達のことか自分のことかはわからないですが、友達がこういうことでしんどい思いをしている子がいたら今度から助言してあげようと思ったという意見も結構あります。

委員：文字で書く欄もありますか。

事務局：はい、あります。

会長：先ほどお伺いしていたボイストレーニングの男女比ですね。

事務局：ボイストレーニングの講座は、32名受講して頂いて、女性が26名、男性が6名でした。

会長：ありがとうございます。他にご意見されていない方で何かありますか。

委員：資料6の相談事業ですが、相談内容というのはプライバシーに触れない程度に傾向といたしますか中身はわかるんですか。例えば、私が念頭にあるのは引きこもり相談、ものすごく社会的な問題になって5年位したら一千万人引きこもり社会になるんじゃないかということも、中高年というか、それに対する差別偏見ですね、犯罪予備軍みたいな形で問題だと思います。DVは、はっきりしているのですが、電話と悩みの中で引きこもりに限らずですが、どういう相談があるのか、傾向分けくらいのごことは公開できないのでしょうか。もし他に公開出来ないけれどもセンター職員間では一定程度共有して講座企画に反映されていることであれば、それで良いかなと思います。

会長：相談内容というのは、具体的なというか、どういう内容、悩みがあるのかを知りたいということですか。

委員：そうですね、傾向ですね。

会長：件数はいいのですが、もう少し件数が少なくても重要な悩みってたぶんあると思うのです。そのところを委員は知りたいとおっしゃっているということですね。もしわかれば教えて頂きたい。

事務局：いずれの相談も夫婦関係の悩みが一番多いですね。次に人間関係、友人関係ですね。あとは引きこもりまでいっておられる方のご相談は、ご本人からはなかなかありません。

会長：ここでしたら、お母さんですか。

事務局：はい、そうです。親御さんが心配されている相談とか。やはり社会に出て就職先で人間関係がうまくいかず、そこから鬱的になって長いこと家に居る、というようなお話はよく聞きます。

委員：夫婦関係が一番だということがわかっただけでも。ある程度中身を少し議論されて講座に反映させてもらえたら一番いいと思います。先ほどご指摘がありましたけれども、いろんなジャンルの講座に渡って非常に応募者が多い講座、特にスキル関係だと思えますが、マインドフルネス体験など。評判が良ければ、次の年も是非して頂ければ良いと思います。前の年の反応を見てより洗練された内容でされるとも思いますし、せっかくですので、ぜひ続けて頂けたら良いと思います。

会長：はい、ありがとうございます。非常に大切なご指摘だったと思います。相談事業内容がここでは示されていませんが、それを分析したうえで講座に反映させるという、それぞれの個別の施策を他へどうやって繋げていっていかってところが大事なことかなとご指摘頂きました。他にございませんか。

委員：二点あるのですけれども、一点目ですが、意識啓発講座のなかで男性向けの講座を何年か前からされているのですけれども、リピーターといいますか精力的にこちらに身近に感じられて来られているのかなあということをお聞きしたい。それとDV対策講座のなかで私がこちらの会議に参加し始めた頃は、中学校がこんなに増えていなくてどんどんスタッフの方々の努力のおかげで増えてきたなと思います。以前にも、もっと若年層の小学生にもという話をさせて頂いたら、今回小学生向けの先生向けのデモンストレーションというのが入っていて、これからまた小学校にも意識啓発に行こうという試み前提の講座だったのかなあということをお聞きしたかった。その時の先生の反応ですとか、これからどういうふうにしていこうと思っているのか伺いたいです。

会長：ありがとうございます。一つは、リピーターの数ですかね。

委員：数というか。何回も来てくださっているなあとか、身近に感じたなどの実感とかでもいいんですけども。

会長：お願いします。

事務局：男性向けの方の講座は、リピーターの方も多くいらっしゃるように感じます。一度センターに来て頂いたら、面白い講座だなあと思って頂いていると思います。

会長：好評に感じて身近に感じているということですね。

事務局：はい、そうです。小学校向けの意識啓発講座ですが、おっしゃるように、まず先生方にデモンストレーションさせていただきました。少しでも早い時期から予防啓発をしたいと考えています。学校からの意見ですが、学校としては予算がないということで、そのあたりが何とかなるならぜひ来て頂きたいというお話をたくさん頂戴しました。

会長：小学校も今、高学年だと総合学習の時間もあったりしてけっこう環境教育なんかも熱心に行われているので、そういう意味でもDVの話を伺う場面があったり、或いは先生方にとっても重要なことだと思います。先生方との連携を図るといってか広げていければなと思います。ありがとうございます。

委員：今おっしゃっていた中学校、小学校へ出前で行かれる時は、有料になるのですか。

事務局：講師への謝礼金はセンターの方から払っています。

委員：学校へたくさん行けば行くほど持ち出しが増えてくるということですか。

事務局：そうですね、そういうことです。

委員：相談件数がかかなり多いというのがありますが、例えばいろんな相談があって、それぞれの所へ繋いでいく役割も果たされていると思うのですけれども。この人数がどうか分からないですけど、そういう役割を果たそうと思ったら、それなりの職員の人数も必要じゃないですか。そのあたりを私たちは心配しているのですけど、どうなのですかね。



事務局：センター自体は毎日開館ということで祝日以外は開館もしていますし、その時に職員の人数が増えていないということもあり、出前講座が増えると随員の職員も増えますので、それなりにしんどいのはしんどいです。

会長：ほかに何かまだ言ってない方がいらっしゃったら、ぜひお声を聞かせて頂きたいと思いますので、いかがでしょうか。質問とかと言うと敷居が高いようであれば、ご感想でも全然構わないと思います。

委員：出前授業が前回の資料より増えているというのが感想なのですが。具体的にどういう授業をしているのかを聞きたいです。子供たちから聞くことがなかなか無いので。今資料を見て、うちの子の中学校にも行っているわ、と確認して、来てたんやという感じです。どういった授業をしているのかが知りたいなあ、というところです。

事務局：だいたい2時間の授業時間を頂いています。まずは気持ちをほぐすアイスブレイクから始まります。「お天気ワーク」を。大学生がホワイトボードに晴れマーク、曇りマーク、雨マーク、雷のマーク、「これは皆さん見たことがありますよね。これを自分の気持ちに例えるとしたらどんな気持ちでしょうか」と手を挙げてもらう。晴れと挙げる子もいますし、曇り、曇りだったら気分は普通かな。雨マークは悲しいとか、逆にお肌しっとりして嬉しいとか。その後、「手を挙げられるということが大事なんですよ」という話をします。「暴力を受け続けると感情すらなくなる。今みんなが手を挙げられたということはみんなに感情があって良かったと思います」というお話をまずユースリーダーがします。そこから暴力の定義を講師の方にしていただいて、ロールプレイですね。

今回は、2つ3つロールプレイをやっているのですが、悪いバージョン良いバージョンという感じで。カップルがデートの待ち合わせをしています、遅れてきました。「遅いなあ、遅れて来たんやから奢って」ってこれは経済的暴力になりますよね、みたいなことを後で説明します。次に、良いバージョンのロールプレイをします。「どうしたん？心配したやん」、「いいよいいよ」みたいなやりとりが本来は良いですよといったことを伝えます。他には相談バージョンのロールプレイもあります。

事務局：他に、人と人の距離感を数値化するワークもします。人にはそれぞれの距離感があって、その境界を侵すことが暴力に繋がっていくので、距離感が見てわかるように、中学生に前に出て来てもらって、大学生と一緒にワークをしたり、先生に協力してもらったりとか。最後は、大学生に自分が中学生、高校生だった時に感じたこととか、いじめを受けたことがあるとか、もしくは大学生で交際している友達でDVを受けているとか、交際ということと中学生はまだそんなにと思うのですが、悩んでいたりする子にはすごく響いていて。今し

んどい思いをしている子ども大学生が前で話している姿を見て、すごい希望を感じてくれている子もいたりします。

委員：子供たちが家に帰ってきて、誰々ちゃんの家いつもコンビニ弁当食べてんねんてとか。そういうのを聞くと、こっちとしては心苦しくなる時があります。お母さんがいつも家がないとか聞く機会があって。それってどこまで踏み込んで良いのか分からないのですけど。友達にそれを相談できているということは、発信できているということで、それで気付くことっていっぱいある。こういう機会でも、出前講座がある時に人に伝える、先生に伝える。すごく良いなあこれを見て思いました。

会長：貴重な意見ありがとうございます。大学でも懲罰委員会というのがあります。学生が反社会的な行動や、ハラスメントも含めて人権問題を起こしたら、懲罰委員会で罰せられるとか、それなりの話し合いによって罰せられるのですが。大学生になってからでは遅いっちゃあ遅いと思ひまして。できるだけ小学校や中学校、その間でいろんな気づきを促すような仕組みが必要かと感じているところです。

DVに留まらず、この問題というのはハラスメントに繋がってきて、いい大人が職場の中でもハラスメントを起こしているわけで、これは本当に大事なことだと話から気づきました。ですので、男女共同参画に留まらない講座がここに充実されているのだという感じを受けました。

会長：ありがとうございます。ほかにご質問されていない方で、いかがでしょうか。何か感想でも良いですけど。

委員：いろいろやっている講座、どんな方が受講されているのか分かりませんが、恐らく本当に受講してもらいたい人は受講していないのではないかと思います。逆に受講される方は、そもそも受講される必要というのはなくて、ただその方がより知識を高めるとか向上心がおありなので、来られているのだと思うのです。もし、仮にそうだとすると、本来受講して頂きたい方はどうやって受講させたら良いのか、と問われると答えは無いのですけど。

さっきのDVとかそういう話にしても、本当は多分もっと根本的な問題だと思うのです。今はそれこそ、がんじがらめの世の中になっているので。私が子供の頃なんて子供同士の喧嘩は日常茶飯事で。それで死亡事故に至るようなことってまずない。悪いことをすれば親から叩かれる、学校では先生から叩かれる、だからこそ、痛みが分かって加減もわかる。子供同士で喧嘩してエキサイトし過ぎたとしても、それはアカンというところはあるのですよ。例えば物を持つとか。そういうのは自分でもわかるし、自分が見失った時には周り

がそれをわかるので。そこまでいくと必ず止めに入る。そういうルールがあったのですけれど。

例えば学校の先生なんて私は気の毒でしょうがない。やっぱり口で効かない子供は必ずいるのです。それを全部暴力だと否定してしまうと何もできなくなって、子供の方は怖くもないわけですよ。怒られるだけ、言われるだけ。最後のところは、叩かれる、手を上げられるという怖さがある。そうならないようにするために、あんまり怒られないようにここで止めておこう、と自制が働く。今は残念ながらそんなことがない。公の機関でやっていると、やっぱり根本的な解決にはならないような気がする。

少し前、今も言われていますが、「あおり運転」がニュースになりました。あれは捕まった方が悪い。でも、日常、車を運転していると、ああいう気持ちになるような運転をされている方もたくさんいらっしゃいますよね。一線を越えると悪いのは間違いないのですが、要は一線を越えるその手前で、被害者だと言っている方も本当に非がないのか、ということを見ると、こういうDVの話をしていると、被害に遭った方だけじゃなくて、加害者の方の話の聞くとか、そういうことが大事かと。

男性だったら一度くらいは経験あるかと思うのですが。奥さんと口喧嘩になって、キーっとヒステリックな感じで言われた時に、その瞬間に無性に腹が立つことがある。それが普通だったらそこまでいかないのかもしれませんが、加害者の肩を持つわけではないのですが、ひよっとしたら言葉の暴力というのがあって。口下手なご主人と、そうじゃない、口が立つ奥さんとだとやっぱり負けるので。負けると最後、結局手が出ちゃう、ということもひよっとしたらあるかも分からない。

もっと元のところからやっていかないと、そういうものってなくならないですよ。

会長：啓発をやっていてどの時点で効果を評価するのか、非常に難しいところだと思いますが、やらないよりはやった方が良くということだと思います。先ほどコミュニケーションの中で、キーっとなる状況で手が出るというお話があったのですが、実はこの講座の中でさっき発見したのですが、アンガーマネジメントという講座がありますよね。あれ直接DVとは関係ないのですが、このアンガーマネジメントってよく開催されていますが、話を聞くと、怒りをどう自分でコントロールするか、マネジメントできるかというところで、例えば日々忙しい仕事と家庭と教育と、すごくイライラする状況の中で、その悔しさとか辛さが、つい子供に当たったりパートナーに当たったりということになるかもしれない。その「なる」前にマネジメントというか、6秒おくという。喋ろうと思うところで6秒間、時間を自分で数える、というアンガーマネジメントのやり方を伺ったのですが、それをやれば怒りが静まっていく、相手に対してコミュニケーションを取っていく、という方法が言われていたりするので、そういった講座なのかなという気がします。

直にDVとは繋がっていないように見えるものでも、結構見えないところで繋がりがあ  
るのかな、という講座も実はあるのですね。潜在的にというのか。その分析をしてみると、  
DVという大きな柱と寄ってくる講座っていっぱいあるのかなという気がします。

それと、先ほど相手とのコミュニケーションというのは、非常に難しい話です。個人的な  
ことではあると思うのですが、地域の中で解決していけるような問題と、個人的な問題が  
あると思うので、そのところはどの対象に、どの講座や啓発を進めていくのか戦略が必要  
だなと、今のご意見で感じました。

委員：男性の立場から言うと、手を上げる立場にも相談の窓口の電話がある大前提、男性の人  
にも門戸を広げるという努力は当然必要かと思います。そのためのITのツールであったり、  
電話一本というのは、電話をする、昔だったら電話の番号を押す、行動がいくつも重  
なることに躊躇する。それならITで何か速やかに、相手も無人的な形で、今後センター  
の在り方、ITツールを活用したLINEでの返答。機械だけれども人間的な、アング  
ーマネジメント的な返しができるアプリを取り込むことが可能になってくると思うのです。  
ITというのはこれから男女共同参画センターにも取り込むのは必須だと思っています。  
直接的には関係ないですけど、先日、芦屋市のセンターの講座に行った時に、これをど  
うやって知りましたか、この講座にどうやって参加されましたか、と参加者さんに聞くと、  
「アプリで届きました」と。芦屋市さんは子供向けだったり、年齢層何歳の子供をもって  
おられる、共働きの、とかカテゴリーがかなり細かく分かれて、ピンポイントに講座の案  
内がいくつことになっていると。凄いなと思って。そういったところを、一つの成功事例が  
あるのであれば、予算の必要な話ではあろうと思うのですけれど、一つのアプリができれば  
コピーとか、無償でも考えられるのかなと思ったりするので、ITの取り組みという  
ところも課題だと思っています。

会長：ありがとうございます。ITというとフェイスブックは発信されています。センターでは  
いろんな講座をしている時に内容をフェイスブックで公開しているのはあると。アプリ開  
発とかLINE、ツイッターというのはまだされていない。今後検討の余地はあると思  
いますし。スカイプとか。うちの息子なんかほとんど家に籠って、スカイプとかで友達と  
やりとりをやっていきますし。そういうツールを増やしていくという方法はとても大事な  
こと。

委員：僕はコードフォー神戸という団体に所属しているのですが、コードフォーとは何かとい  
うと自治体の問題を民間の人間がそこに集まって、コードをかける人間が、僕みたいな意見  
をアプリ間で会議を2か月に1回とか開かれて。このITのアプリ開発に興味がある人と

コードフォー何々と、全国のメンバーが、そのメンバーに入りたいとかという仕組みが既にできているのです。

会 長：それは市民だけじゃなくですか。

委 員：そうです。市民が公共の課題を解決するというのが目的です。日本だけではなく発祥がアメリカという国際的な団体です。その中でコードフォー・ジャパン、生駒もあれば神戸と。僕はたまたま神戸に所属しているのですが、どんな課題でも誰でも提言していいのです。それに日本全国、興味のある人が、僕はアプリを作る力があるので賛同します、と言えは済むのです。

会 長：自分の得意分野を活かせるような場所だということですね。それはどうやったら入れるのですか。

委 員：コードフォー・ジャパンとかコードフォー何々を検索すれば行きつく。生駒が先進的にやられていて。

会 長：生駒は街づくりでも。

委 員：そうです。日本初、何々とか。それがニュースにならないと、それがおっしゃるWリボン、紫とオレンジというのが吹田市にあると全国に知ってもらえることに繋がるということになるのかなと。みんな持ち寄りですよ。各専門委員さん持ち寄りで吹田市を盛り上げようというのと同じことかと。

会 長：たぶん冒頭に参画センターからの説明で、来年度は直接支援が重要だという話がありました。行政だけでやると限界があって、市民力とか、地域力とかそういったものの活用が今後必要になってくる、というご指摘かなと思っています。専門的な知識や力をお持ちの市民の方、たくさんいると思いますので、そこをどうするかということですよ。実践が伴っている活動はすごい人がいっぱいいらっしゃるということで。

委 員：先ほどおっしゃったコードフォーの取組を、私、市民ネットすいたという法人から来ているのですが、そこで始めかけておまして。具体的にはできていないですがコードフォー吹田というのを作り始めています。また神戸とか参考にさせて頂きながら、吹田の中で課題解決ができるようにと思っています。

会 長：そういうところと連携していくのが重要なのかなと感じています。

委 員：啓発が本当に必要な人に届いているのかというのもそうなのですが、今のお話を聞いていると行政が準備する場所と、今言われたように民間でやる場所、いろいろあって。どちらかというところ、この立場ではむかつくよねみたいな、コミュニティでしてもらった方がストンと落ちる。行政はやっぱり駄目なものは駄目という一つの社会的基準を示すことは役割だと思ふし。行政ですると型通りになって上から目線になるのです。同じ悩みとか意見を共有する、もしくは同じ立場だけれども、例えば先ほどの夫婦関係の話ですよ。友達の夫婦関係で学ぶこととか、さっき言われた民間で盛り上げていく、行政と両方じゃないと駄目だなと思いました。行政の意義と限界をみんなで共用しながら、その欠点を補ったら良いという中で、自ずと行政以外で呼びかける、ITを利用するというのはすごく、ぜひ、コードフォー吹田というのを参加してほしいと思ふます。

子供食堂も先ほどの、吹田で取り組み始めているので、地域でも同じ思いを持っている人が多いと思ふので。男女共同参画センターを一つの拠点としながら、主人公はやはり市民かなと思ふました。またそういうことも技術的にできるようになっているのだと、お話を聞いて感じました。

委 員：女性のための相談というのがあり、男性のための相談の場所が本当に少ないです。DVをしている方も心にいろんなものを抱えているので、その人の想いを話す所があったら良いのですけど。たぶん吹田でやってないですよ。

事務局：男性相談となるとまだできていません。

委 員：吹田であるのですか。

事務局：センターのDV相談は女性だけですが、吹田ストップDVステーションでは男性からの相談も受け付けております。

委 員：DV相談は女性のためのってなっていますよね。ではなくて、ここは女性センターではなく男女共同参画センターなので、男性の相談室というのもこのセンターの中にあれば、電話相談とか、悩みの相談とか。今チャイルドラインとかも電話が少なくなって、LINEとかそういうもののツールの方が人気はあって。相手の表情とか声のトーンとか何も分からない、文字だけなのでこっちで判断して答えてしまうというところがあるので、私はちょっと苦手なんです。私はお声とかお顔を見ながら相談を受ける方が、いいんですけど。

今はそっちが主流になってきて、男性の方だったらパソコンとかスマホでできるのだったら、相談がデュオの中でも入って行って良いのではと感じました。

委員：講座の中でどうしても手が上がってしまう男性のための講座とあって、組んでもらったりしたら良いかもしれないですね。

会長：発達障がいも。

委員：はい。成人のための発達障がい、すごく光が当てられています。発達障がいは子供のものだと思っていて。DVする男の人もそういう環境だったとか。そういう意味では講座の、被害者、加害者ではなくて視点が違うところから取り上げたら。また違う面から参加者があるかもしれないですね。

委員：たぶん手を上げる人にはそんなこと言っても無駄だと。自制がきかないから手が上がっている。その人に生まれ変わってもらうしか方法がない。

委員：それは違う。

委員：それ以上に怖さを教えるしかない。私は目には目をじゃないけど、同じことをしないとわからない。

委員：僕は実は手を上げられて育ってきた立場で、手を上げて半分、育ててきました。で、ある時、必要がないことに気づきました。ありがたいことに子供が6人いるので、まだ半分残っていました。全然見える世界が違います。手を上げる必要性なんか全く感じない。ということは、世の中にそういう人間がいるということは、聴く耳を持っている人間もいる、ということです。その講座の必要性もあると思います。だからロールモデルというか、僕なんか日々うちのカミさんに怒られるのは、他人さんの奥さんの意見だったらスッと入ってきていると。ということはDVを受けている人、やっている人、そこに混在すると何かが生まれる可能性がものすごく多いなど。他人さんの奥さんの意見とか、そういう多様な意見を聞く、その場がセンターかなど。そういった講座には未知数の可能性があるのかなど。

委員：そしてまたここの情報をみんなが発信していくということがすごく大事ななど。ここで話して終わってしまうのなら、ここで話したらいいだけの話なので。それを持ち帰って、私はPTA代表として来させてもらっているの、PTAや学校に広める、地域のコミュニ

ティで広めていく。そうしたらこの間そんなこと言っていたな、講座あるって言っていたな、私が発信したことによって、誰かがそれを覚えていて、興味を持って聞いてくれるかもしれない。どんどん広がっていけば誰かが引っかかってくれるのではないかと。それがすごく大事なことだと。

委員：デートDV予防啓発講座だったと思うのですが、高校生にボーイフレンドがいるのなら1回行ってみたらと言ったら、本当に行って良かったって言っていました。何も知らないですよ、行ってみたらチラシを渡したのですが、行って良かったです、って。私が思っていたお付き合いと違った、彼にもきちんと言えるようになったと。伝えてよかったですと思いました。本当に草の根ですよ。でもそこから広がっていくのだなあ。

委員：そこから変わる人って、おっしゃりたかったのは、もともと興味関心がある人が行くのだから、その人たちにいくら言っても変わらないのでは、ということかなと思うのですが。逆に中学校の出前授業とか、事業者向けの研修会とかは満足度80%以上の割合がちょっと低いですよね。これって何が違うのかな、と思ったのですが。おそらく自分で興味あって行く人と、受けなさいって言われる人の違いだと思うのですけど。

でも低くてもこれは大事なかなと。強制的に機会が与えられるというのは、一つの感覚を磨く機会かなと思ひまして。私、弁護士でDV相談も受けるのですが、多くの場合おっしゃるとおり、奥様の口が立って、そこに腹が立って男性がガンガンやるパターンが全部じゃないですが一つのパターンとしてあります。

女性側で相談を聞いている時に、そんな言い方しなくても良かったんちゃう、と正直あるにはあるのです。じゃあ、なんで最後殴ってしまったのが駄目かということ、そこで力関係が変わるのです。それで家の中で怯えなければいけないということが一番しんどいと思ひて。それって、もともとの育ちであったりとか、最初から悪人である人なんかいないはずなので。そこは親からの影響もあると思ひますし。教育の機会が与えられて、そこで自分の感覚を磨くチャンスが散らばっている方が良く思ひます。割合が低くても地道にアタックし続けるというのは重要なのではないかと今日お話聞いて思ひました。

会長：ありがとうございます。いろんな意見が今日は出て、私も勉強になりました。こういう場所がたくさんあればいいですよ。審議会だけじゃなくて。

ご意見ありがとうございます。他に無いようでしたら、次に行きたいと思ひます。

案件2のその他について、お話したいと思ひますが。前回ですね、審議会の男女比率についての男女共同参画審議会への報告をお願いいたします。



事務局：報告の方ですが、今月の18日に男女共同参画審議会が開催されますので、その時に報告  
と思っております。

会 長：ありがとうございます。18日にご報告するというので、前回のお話の内容をお伝えい  
ただくというので。また結果は次回にご報告して下さるということですね。よろしくお  
願いします。他に事務局から何かございませんでしょうか。

事務局：次回の審議会についてですが、令和2年8月頃を予定しております。詳細につきましては  
後日ご案内をしますのでもよろしくお願いいたします。

会 長：ありがとうございます。他にこれだけは言っておきたいというのはありませんか。他に  
ございませんようでしたら、以上をもちまして本日の審議会を終了させていただきます。本日は  
お忙しい中ありがとうございました。

以上